

【京都府青少年育成協会会長奨励賞】

「六度目の春がやってきた」

京都文教中学校 3 年
出口 茜 絵



『春がやってきた～、我が故郷の島に～』

毎年、猛練習するこの曲。私がミュージカルのレッスンを始めてから、5 年間落ち続けたオーディション、「赤毛のアン」の課題曲です。このオーディションを通して、私はたくさんの経験をし、何度も挫折を味わい、それを乗り越え、様々なことを学びました。

初めてオーディションを受けた小学 3 年生。レッスンを始めたばかりで、オーディションを受けること自体が初めてでした。そのため、ダンスの振り付けについていけず、呆気なく落ちました。自分の無力さを思い知りました。それから一年間、レッスンを重ね、翌年の合格を目指しました。

そして、迎えた 2 度目、小学 4 年生。前年の悔しさから必死に頑張ったダンス。振り付けには余裕でついていくことができ、ダンス審査を通過。次は課題曲の歌審査。練習の成果を十分に出すことができ、通過しました。仲良しの友達 3 人と一緒に。そしてこの後待っているのが私をたびたび悩ませる最終審査です。身長などのバランスを考慮し最終合格者を決定する審査の結果は、オーディション当日ではなくその 1 か月後に分かります。結果がポストに届くまで緊張して過ごしました。結果、不合格。友達は 3 人とも合格でした。落ちた理由はおそらく、当時飛びぬけて高かった身長。実力以外の点で落とされたことにはやり場のない悔しさがありました。せっかく 1 年間必死に頑張ってきたのに、と。その後、夏にある本番を観ました。舞台上で歌い踊る友達はとても華やかに輝いていました。羨ましくなったり、悔しくなりました。そしてまた 1 年間、今度は身長のハンデをねじ伏せられるほどの実力を身に付けようと、今まで以上に必死に頑張りました。

3 度目、小学 5 年生。その頃別のオーディションの対策に必死になっていて、「赤毛のアン」は諦め気味でした。最終審査まで行けたとしてもどうせまた落とされるだろう、と。結局、私の身長は高かったのです。結果、歌審査で声が裏返るといふ大きな失敗を犯し、不合格。これは身長のせいではなく、自分の実力がなかった、それだけです。練習の大切さ、そして自分の実力の足りなさを再度、思い知りました。

そして 1 年後、気持ち新たに臨んだ 4 度目、小学 6 年生。この年齢から合格が一気に難しくなります。ダンスも歌もレベルが高く、圧倒されました。この年、最終審査まで進みましたが、また落ちました。理由は、分かりません。ですが不思議と気は晴れていました。小 6 でここまで進めるだけでもかなり凄いことだったからです。出たい気持ちはあったけれど、その年は自分の頑張りを自分で褒めました。

そして、翌年、五度目、中学 1 年生。なぜかダンスの振りが頭に入ってきませんでした。それほど難しい振りではなかったはずなのに。その結果、ダンス審査で落ちました。昨最終審査までいけたのだから大丈夫だろう、そう思っていたのですがそれほど甘くありませんでした。実力は、全然足りていませんでした。甘えを捨て、また基礎から頑張りました。

それから 1 年が経ち、迎えた 6 度目、中学 2 年生。新たな気持ちで臨みました。今までで一番練習しました。前年、全く覚えられなかったダンス。完璧に覚え、張り付くほどの笑顔で踊り、通過しました。歌審査でも落ち着いて歌え、通過。そして、過去大きな挫折を味わった、最終審査。結果がポストへ届くまで、6 度目の正直、と合格を願いました。本気で出演したかったのです。

報せは、嬉しいものでした。合格でした。6 年もの間願っていた夢が、叶おうとしています。8 月の最後には本番があります。いままでの思いを胸に、そして私をここまで成長させてくれた「赤毛のアン」に感謝し、最高の舞台を作り上げたいと思っています。